

# 「農地等の利用の最適化の推進に関する指針」

平成31年3月8日制定

令和4年5月6日改正

令和5年2月7日改正(令和5年4月1日施行)

京丹波町農業委員会



# 京丹波町農業委員会「農地等の利用の最適化の推進に関する指針」

## 第1 基本的な考え方

農業委員会等に関する法律(昭和26年法律第88号。以下「法」という。)の改正法が平成28年4月1日に施行され、農業委員会においては「農地等の利用の最適化の推進」が最も重要な必須事務として、明確に位置づけられた。

京丹波町においては、農業従事者の高齢化と担い手の減少による労力不足等が要因となり不作付地が増えており、それに向けた対策を図ることが求められている。

また、本町は、平地と中山間地域が混在しており、それぞれの地域によって農地の利用状況が異なっているため、地域の実態に応じた取り組みを推進し、それに向けた対策の強化を図ることが求められている。

特に、中山間地域では、有害鳥獣による被害の増加や農家の高齢化・担い手不足等に伴う遊休農地の発生が懸念されていることからその発生防止・解消に努めていく一方、平地では土地利用型の水稲栽培等が主なことから担い手への農地利用の集積・集約化を図るため、「地域計画」(農業経営基盤強化促進法等の一部を改正する法律案(令和4年法律第56号)による改正後の農業経営基盤強化促進法(昭和55年法律第65号。以下「改正基盤法」という。)第19条第1項の規定に基づき、市町村が、農業者等の協議の結果を踏まえ、農業の将来の在り方や農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標として農業を担う者ごとに利用する農用地等を表示した地図などを明確化し、公表したものをいう。)に基づいて農地中間管理事業を活用した利用調整に取り組んでいく必要がある。

以上のような観点から、地域の強みを活かしながら、活力ある農業・農村を築くため、法第7条第1項に基づき、農業委員と農地利用最適化推進委員(以下「推進委員」という。)が連携し、担当区域ごとの活動を通じて「農地等の利用の最適化」が一体的に進んでいくよう、京丹波町農業委員会の指針として、具体的な目標と推進方法、目標の達成状況に対する評価方法を以下のとおり定める。

なお、この指針は、改正基盤法第5条第1項に規定する京都府の農業経営基盤の強化の促進に関する基本方針及び改正基盤法第6条第1項に規定する京丹波町の農業経営基盤の強化の促進に関する基本構想を踏まえた農業委員会の長期的な目標として10年後に目指す農地の状況等を示すものであり、農業委員及び推進委員の改選期である3年ごとに検証・見直しを行う。

また、単年度の具体的な活動については、「農業委員会による最適化活動の推進等について」(令和4年2月2日付け3経営第2584号農林水産省経営局長通知、令和4年2月25日付け3経営第2816号農林水産省経営局農地政策課長通知)に基づく「最適化活動の目標の設定等」のとおりとする。

## 第2 具体的な目標、推進方法及び評価方法

### 1 遊休農地の発生防止・解消について

#### (1) 遊休農地の解消目標

	管内の農地面積 (A)	遊休農地面積 (B)	遊休農地の割合 (B/A)
開始時の現状	1,660ha	12.0ha	0.72%
3年後の目標			
当初目標	1,655ha	10.5ha	0.63%
現 状	1,590ha	6.1ha	0.38%
到達目標(令和5年4月)			
当初目標	1,650ha	9.5ha	0.58%
目 標	1,590ha	4.1ha	0.25%

#### (2) 遊休農地の発生防止・解消の具体的な推進方法

##### ① 利用状況調査と利用意向調査の実施について

ア. 農業委員と推進委員のチーム制による農地法(昭和27年法律第229号)第30条第1項の規定による利用状況調査(以下「利用状況調査」という。)と同法第32条第1項の規定に基づく利用意向調査(以下「利用意向調査」という。)の実施について協議・検討し、調査の徹底を図る。それぞれの調査時期については、「農地法の運用について」(平成21年12月11日付け21経営第4530号・21農振第1598号農林水産省経営局長・農村振興局長連名通知)に基づき実施する。なお、従来から農地パトロールの中で行っていた、違反転用の発生防止・早期発見等、農地の適正な利用の確認に関する現場活動については、利用状況調査の時期にかかわらず日常的に実施する。

イ. 農業委員と推進委員が連携をはかる中で、1年間に1人1筆以上、遊休農地の解消に努める「1人1筆解消運動」を展開する。

ウ. 利用意向調査の結果を踏まえ、農地法第34条に基づく農地の利用関係の調整を行う。

エ. 利用状況調査と利用意向調査の結果は、「農地情報」として速やかに「農業委員会サポートシステム」への反映やHPにおいて公開するように努め、農地台帳の正確な記録の確保と公表の迅速化を図る。

##### ② 農地中間管理機構との連携について

利用意向調査において、農地中間管理事業を利用する意思があったときは、農地中間管理機構への貸付け手続きを行う。

##### ③ 非農地判断について

利用状況調査において、既に山林または原野化し、農地へ復元が困難と判断した土地または、復元しても営農の継続が困難な土地については、地域の意向及び農地転用制度との整合性をはかりながら、農業委員と推進委員が協議の上、速やかに「非農地判断」を行い、守

るべき農地を明確化する。

### (3) 遊休農地の発生防止・解消の評価方法

遊休農地の発生防止・解消の進捗状況は、遊休農地の割合により評価する。

単年度の評価については、「農業委員会による最適化活動の推進等について」に基づく「農業委員会の農地利用の最適化の推進の状況その他事務の実施状況の公表」のとおりとする。

## 2 担い手への農地利用の集積・集約化について

### (1) 担い手への農地利用集積目標

	管内の農地面積 (A)	集積面積 (B)	集積率 (B/A)
開始時の現状	1,660ha	241.3ha	14.53%
3年後の目標			
当初目標	1,655ha	244.9ha	14.80%
現 状	1,590ha	283.4ha	17.80%
到達目標(令和5年4月)			
当初目標	1,650ha	247.3ha	14.99%
目 標	1,590ha	562.9ha	35.40%

### (2) 担い手への農地利用の集積・集約化に向けた具体的な推進方法

#### ①「地域計画」の作成・見直しについて

農業委員会として、地域ごとに人と農地の問題を解決するため、10年後の農業の在り方と農地利用の将来像を描く「地域計画」の作成と見直しに京丹波町(農林振興課)と連携して取り組む。

#### ②農地中間管理機構等との連携について

農業委員会は、京丹波町(農林振興課)、京都府農地中間管理機構、農協等と連携し、(ア)農地中間管理機構に貸付けを希望する復元可能な遊休農地、(イ)経営の廃止・縮小を希望する高齢農家等の農地、(ウ)利用権の設定期間が満了する農地等についてリスト化を行い「地域計画」の作成・見直し、農地中間管理事業の活用を検討するなど、農地の出し手と受け手の意向を踏まえたマッチングを行う。

#### ③農地の利用調整と利用権設定について

京丹波町の農地利用の状況を踏まえ、担い手への農地利用の集積が進んでいる地域では、担い手の意向を踏まえた農地の集約化のための利用調整・交換と利用権の再設定を推進する。

また、中山間地域等の農地の区画・形状が悪く、受け手が少ない又は受け手がない地域では、農地中間管理機構による簡易な基盤整備事業の活用と併せて集落営農の組織化・法人化、新規参入の受入れを推進するなど、地域に応じた取り組みを推進する。

#### ④ 農地の所有者等を確認することができない農地の取扱い

農地の所有者等を確認することができない農地については、農業委員会の公示後、農地中

間管理機構を通じて、利用権設定を行うことができる制度を活用し、農地の有効利用に努める。

### (3) 担い手への農地利用の集積・集約化の評価方法

担い手への農地利用の集積・集約化の進捗状況は、農地の集積率により評価する。

単年度の評価については、「農業委員会による最適化活動の推進等について」に基づく「農業委員会の農地利用の最適化の推進の状況その他事務の実施状況の公表」のとおりとする。

## 3 新規参入の促進について

### (1) 新規参入の促進目標

	新規参入者数 (個人・法人)	参入目標面積
開始時の現状	3経営体	1.4ha
3年後の目標		
当初目標	4経営体	2.4ha
現 状	16経営体	4.8ha
到達目標(令和5年4月)		
当初目標	5経営体	3.4ha
目 標	20経営体	5.3ha

### (2) 新規参入の促進に向けた具体的な推進方法

#### ① 関係機関との連携について

京都府・全国の農業委員会ネットワーク機構、京都府南丹農業改良普及センター、京都府農業会議と連携し、管内の農地の借入れ意向のある認定農業者及び参入希望者(法人を含む。)を把握し、必要に応じて現地見学や相談会等を実施する。

#### ② 新規就農フェア等への参加について

京丹波町(農林振興課)、農協等と連携し、農業委員や推進委員が新規就農フェア等に積極的に参加することで新規就農希望者の情報収集に努め、新規就農の受入れとフォローアップ体制を整備する。

#### ③ 企業参入の推進について

担い手が不足している地域では、企業も地域の担い手確保の有効な手段であることから、京都府農地中間管理機構も活用して、積極的に企業の参入の推進を図る。

#### ④ 農業委員会のフォローアップ活動について

農業委員と推進委員は、日常活動等による所有者等の状況・農地の現状把握など情報収集に努めるとともに、青年や女性、法人等、新たな担い手農家の掘り起こし活動を行う。

また、農業への新規参入者(法人を含む。)と地域のつながりを取り持つなど京丹波町や関係団体と協力しながら、支援を行う。

### (3) 新規参入の促進の評価方法

新規参入の促進の進捗状況は、新規参入者(個人、法人)の数により評価する。

単年度の評価については、「農業委員会による最適化活動の推進等について」に基づく「農業委員会の農地利用の最適化の推進の状況その他事務の実施状況の公表」のとおりとする。

### 第3 「地域計画」の目標を達成するための役割

京丹波町において作成された「地域計画」に基づき、農地を効率的かつ総合的に利用していくため、当農業委員会は次の役割を担っていく。

- ・日常的な農地の見守りによる農地の適正利用の確認
- ・農家への声掛け等による意向把握
- ・「地域計画」で位置付けられた担い手への農地の利用調整やマッチング
- ・農地中間管理事業の活用の働きかけ
- ・「地域計画」の定期的な見直しへの協力